

令和5年度病害虫発生予察情報 注意報 第1号

令和5年7月21日
青森県病害虫防除所

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。
出穂7日前までの草刈りと出穂後の薬剤防除を徹底してください。
水稻の生育も早まっているため、早めに作業を行いましょう。

病害虫名 斑点米カメムシ類
(アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ)

作物名 水 稲

1 発生地域 県内全域

2 発生量 多 い

3 注意報の発生根拠

- (1) 県内3か所（青森、木造、八戸）に設置した予察灯では、アカヒゲホソミドリカスミカメの平均誘殺数が7月2半旬に189頭（平年：35頭）と平年を大きく上回った（図1左）。アカスジカスミカメについても、6月2半旬以降の誘殺数が平年より多く推移している（図1右）。
- (2) 7月11日～14日に実施した畦畔等すくい取り調査での発生地点率は、アカヒゲホソミドリカスミカメが90.0%（平年：57.3%）、アカスジカスミカメが42.5%（平年：18.7%）といずれも平年を大きく上回った（表1、表2）。平均捕獲数はアカヒゲホソミドリカスミカメが14.5頭（平年：4.9頭）と平年を大幅に上回り、イネ科雑草が残る畦畔では捕獲数が30頭を超えるところも6地点で確認された。
- (3) 7月20日発表の「向こう1か月の天候の見通し」では、今後の気温が平年より高い見込みであり、斑点米カメムシ類の発生がさらに増えることが懸念される。

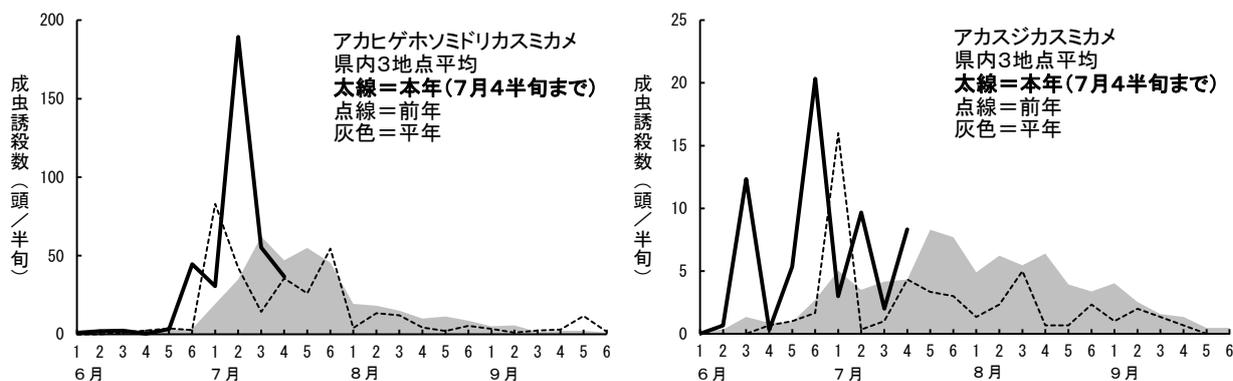


図1 予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺状況

表1 7月中旬巡回調査におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの捕獲数（畦畔）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率（％）					発生地点 率（％）	平均 捕獲数
			甚(>30)	多(>10)	中(>3)	少(>0)	無		
津軽	本年	25	20.0	24.0	36.0	20.0	0	100	16.9
	前年	35	2.9	28.6	45.7	17.1	5.7	94.3	9.0
	平年	35	3.8	7.9	20.7	26.6	40.9	59.1	5.5
県南	本年	15	6.7	6.7	46.7	13.3	26.7	73.3	10.4
	前年	28	0	17.9	28.6	35.7	17.9	82.1	5.5
	平年	30	2.6	6.6	15.2	31.0	44.6	55.4	4.2
県計	本年	40	15.0	17.5	40.0	17.5	10.0	90.0	14.5
	前年	63	1.6	23.8	38.1	25.4	11.1	88.9	7.5
	平年	65	3.2	7.4	18.1	28.5	42.7	57.3	4.9

表2 7月中旬巡回調査におけるアカスジカスミカメの捕獲数（畦畔）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率（％）					発生地点 率（％）	平均 捕獲数
			甚(>30)	多(>10)	中(>3)	少(>0)	無		
津軽	本年	25	4.0	0	12.0	28.0	56.0	44.0	2.8
	前年	35	0	14.3	5.7	22.9	57.1	42.9	3.6
	平年	35	2.6	3.7	2.5	9.9	81.3	18.7	2.3
県南	本年	15	0	0	6.7	33.3	60.0	40.0	0.7
	前年	28	3.6	3.6	3.6	21.4	67.9	32.1	2.5
	平年	30	1.5	4.3	3.8	9.4	81.1	18.9	2.3
県計	本年	40	2.5	0	10.0	30.0	57.5	42.5	2.0
	前年	63	1.6	9.5	4.8	22.2	61.9	38.1	3.1
	平年	65	2.0	4.0	2.9	9.7	81.3	18.7	2.3

4 防除方法

(1) 除草による耕種的防除

ア 畦畔の草刈りは出穂7日前までに終わる。なお、本年の水稲の生育は県生育観測ほど4日程度早まっているため、遅れずに作業を終える。

(詳しい出穂期の予測は、青森県農業・就農情報サイト「農ナビ青森」の水稲生育予測 (<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/predict>) で確認。)

イ やむを得ず出穂後に草刈りを行う場合は、薬剤散布後（残効性が高い薬剤は散布直前から1週間以内、それ以外の薬剤は散布後速やかに）に行う。

ウ ノビエ、ホタルイ及びシズイは斑点米カメムシ類の発生源となるので、水田内の除草を徹底する。

(2) 薬剤による防除

ア 薬剤により散布適期、散布回数が異なることに留意し、適期防除に努める。

イ 多発が見込まれる水田では、最終散布の7～10日後に追加防除を行う。

【1回散布を基本とする方法】（残効性の高い薬剤を使用）

薬剤名	IRACコード [※]	有効成分	使用回数	散布時期
キラップ	2 B	エチプロール	2回以内	穂揃期～穂揃7日後
スタークル	4 A	ジノテフラン	3回以内	穂揃7～14日後
アルバリン	4 A	ジノテフラン	3回以内	穂揃7～14日後
ダントツ	4 A	クロチアニジン	3回以内	穂揃7～14日後
エクシード	4 C	スルホキサフロル	3回以内	穂揃7～10日後

ダントツはアカスジカスミカメに対して効果が劣る事例があるので、例年多発するほ場では使用しない。なお、同粉剤を使用する場合はダントツH粉剤を用いる。

【2回散布を基本とする方法】(上記以外の薬剤)

薬剤名	IRACコード	有効成分	使用回数	散布時期
エルサン	1 B	P A P	2回以内	1回目：穂揃期
スミチオン	1 B	M E P	2回以内	2回目：穂揃7～10日後
トレボン	3 A	エトフェンプロックス	3回以内	



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

————— 農薬を使用する際は必ず最新の農薬登録情報を確認してください —————

農林水産省「農薬情報」 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/
 農林水産省「農薬登録情報提供システム」 <https://pesticide.maff.go.jp/>

～青森県農薬危害防止運動展開中！（6月1日～8月31日）～

- 農作物や使用者の安全のため、農薬は使用基準を守って使用しよう！
- 農薬散布の際は、周辺に農薬を飛散させないようにしよう！

【問合せ先】 青森県病害虫防除所
 〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6
 TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900
 E-mail byogaichu@pref.aomori.lg.jp

※当情報は青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」
 (<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に掲載しています。